

英国ロンドンに本部を置くワインとスピリッツの教育機関「WSET (Wine & Spirits Education Trust / タンフリーセット)」のワイン資格を受講・受験するワイン業界関係者が増えている。日本での認定校は増加数を非公表としているが、毎学期(半年ごと)ほぼ満席の状態が続いている。

「WSET」のワイン資格 大橋氏MW機に受講者増

「多角的な説明力」求め

受講者数増加の大きなきっかけは、2015年に世界最高峰のワインの

博学・権威の称号「マスターフワイン(MW)」を取得した大橋健一氏

在だ。「MWとWSETの知名度が上昇、16年以降受講者数が大きく膨らんだ」(WSET認定校

のJプレゼンスアカデミー / 東京都港区)

レベル1から4で、世界共通のカリキュラム。

人気の資格は「レベル2(受講料税込八万六、四〇〇円)」「レベル3(同

一七万二〇八円)」。Jプレゼンスアカデミーとアカデミー・デュ・ヴァン

(東京都渋谷区)が開講。講座受講者に受験資格が

与えられる。

目指すはディプロマ、MW

造を詳細に学び、ワインを正確に評価し、品質に

よる講座が最初に満席となる「(同校)」という。

立つ。輸入業者に勤務する30代の女性は「取引の

たい。ソムリエ資格とは、そこが大きな違いだと思

どんどがワイン業界関係者」だ。英語のみ。六つのユニットから講座が構成され、それぞれに試験がある。ディプロマ取得を目指す輸入業者勤務の40代の女性は「試験がすべて英語のうえ、論理的な思考を試され、海外の生産者やネゴシアンとの会話や交渉で実践的に役立つ」と話す。

国内のディプロマ取得者は、昨年7月時点から六人増えて現在三四人。WSETは、英国のワイン商組合ワイントナーズ・カンパニーが1969年に設立。

ついて自信を持って説明できるようになる」(WSET)という。

Jプレゼンスアカデミー

によると「現在の受講者の六〇七割がワイン業界関係者」。輸入業者、卸業者が多く「英語に

受講者には、すでに日本ソムリエ協会の「ソムリエ(旧ワインアドバイザー)」資格を持つ30代前後が多く、女性が目

ある産地や生産者に限らず、品質や流通・市場性、世界の潮流などの観点からワインを多角的に分析できる力を身につけ

「と話す。WSETの最上級資格で合格が難しいとされる「レベル4(ディプロマ)」の受講者も増えている。

認定校はJプレゼンスアカデミーだけ。

受講者のほ